

(様式1)

令和5年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和6年2月15日  
江別市立上江別小学校

1 今年度の重点目標

育成すべき資質・能力

- 自信 根気 ←学力・体力(知識技能・思考判断表現力)
- おもいやり ←人との関わり・親切(人間性)
- 規範意識 ←挨拶・規律(人間性)

「いきいき のびのび」

かんがえる子 やさしい子 げんきな子 なかよくする子・・・教育目標を受けて

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	「子ども・保護者・地域から信頼され調和のある学校づくりの推進」 道徳教育の充実、地域と連携した総合的な学習や行事の推進、教育活動の情報発信の推進、子どもの学びにつながる働き方改革の推進を通して創意工夫ある学校運営の充実が図られたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型肺炎感禍の制限が解除され、運動会や学芸会などの行事を人数制限なくほぼ従来に近い形で実施することができた。地域と連携した総合的な学習も、再開した。</li> <li>・ 働き方改革では、ICTの活用で教材作成などの時間削減につなげ、教材研究の時間を確保することができた。</li> <li>・ 昨年度、SDGsの観点で見直した総合的な学習の計画を、今年度、実施した。「えべつ学」など地域のよさを知り、大切に学習について、地域の方を外部講師として実施することができた。</li> <li>また、北海道主催の「フロンティアキッズ育成事業」に参加し、SDGsの観点から地場産小麦を調べ、江別市の農業について持続可能な農業を支えるための提言発表をした。</li> <li>・ 新型肺炎禍で中断・縮小していた教育活動を再開する際、改めてねらいを明確にして計画し、実施することができた。</li> <li>・ 次年度も教育活動のねらいをより明確にして計画する。</li> </ul>	A	A
	「子どもの豊かな自己実現を図る教育の推進」 支持的風土の学年学級経営の推進、個に応じた特別支援教育・教育相談	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支持的風土の学級経営を基盤とし、学年経営の視点を持ち、学年合同での学習、行事の指導を通して、その学年で身につけさせたい力を育てることができた。また、児童アンケートや個別の教育相談から児童一人一人の思いを把握し、温かい学級づくりに努めた。</li> <li>・ 特別支援コーディネーターを中心に、教育相</li> </ul>	A	A

<p>の充実、安全安心な教育環境整備、令和の教育に対応した教育課程の編成実施を通して子どもの豊かな自己実現を図る教育が推進されたか。</p>			
<p>「自ら学び考える力と自信を育む教育の推進」 授業力向上と研修の充実、GIGA スクール構想の実現、キャリア教育の充実を通して自主性と主体性を育む教育が推進されたか。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上チームによる各種調査等の分析と方策を明確にし、共通理解をもって授業改善に取り組んだ。校内研究では、教師が一方的に説明するのではなく、児童が主体的に課題を見つけ、友達と対話することを通し、学びを深める授業づくりを研究した。一人1台タブレット端末を活用し、協働的な学びにつなげることができた。</li> <li>・年度当初は、タブレット端末活用に戸惑っている教職員もいたが、徐々にタブレット端末活用に慣れ、授業で効果的に活用できるようになり、児童も楽しく取り組むことができた。今後は、活用の工夫を紹介しあう機会を設け、全教職員で取り組んでいく。</li> <li>・キャリアパスポートを活用し、次の学年（中学校も）へ引継ぎ、自らの成長に気づかせたりこれからの目標を立てるのに役立てたりしている。4つのステージのテーマに基づき、ステージの始めと終わりには、校長の講話をもとにして、目標とふりかえりを記録し、成長を確かめることができた。各行事でも同様に活用した。</li> <li>・タブレット端末活用を通して児童の主体性を育てていく。</li> </ul>	<p>B</p>	<p>B</p>
<p>「豊かな心と健やかな体を培い、社会性を育む教育の推進」 迅速かつ効果的な生徒指導の充実、豊かな心と健康な体を育む教育の充実、規範意識の醸成、自らの身を守</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や礼儀を大切にし、生徒指導に取り組んできた。年間指導事項を明確にし、月ごとに重点を決め、指導と反省をしっかりと行った。</li> <li>・毎週金曜日、交通安全について、その時期にあった指導内容を提示し、全校で指導している。</li> <li>・地域の見守り隊の方との連携を大切にし、指導事項を共有してきた。</li> <li>・水害時の避難訓練、Jアラート発出時の避難の仕方を明確にし、実際発出されたときに避難さ</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>

	る防災・安全教育の充実を通して、心・体・社会性を育めたか。		<p>せることができた。次年度は、Jアラートの避難訓練を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から児童の危険な行動についてご指摘をいただくことがあった。生徒指導部を中心に定期的な校外巡視を確実にを行い、情報を共有して、指導事項を決め、予防的な指導を行う。見守り隊の方や PTA と協力し、交通安全指導後、児童の実態交流を確実にを行い、内容を全教職員で共有し、指導につなげる。</li> </ul>		
テーマ ・ 落ち着きのあるきれいな学校	<p>新型肺炎対策に基づくより良い教育課程の編成・実施・評価・改善の推進（学びの定着と向上）を図ることができたか。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型肺炎禍で ICT 活用が進み、データをクラウドに保存し、全教職員で共有するなど、日常的に行うようになった。授業・児童会活動・行事など様々な場面で活用が進んでいる。</li> <li>・オンラインで場所が違って繋がるようになり、様々な学びの形が生まれている。</li> <li>・学力向上チームを中心にして、各種調査による分析で課題を明らかにし、学年で改善策を考え取り組んだ。チャレンジテストや単元テストで、定着状況を検証し、改善策を新たに考え取り組んだ。</li> <li>・次年度も、様々な状況においても、どの子ども取り残さない学習指導を継続していきたい。</li> </ul>	A	A
	<p>お互いを大切に生き生きと学び合い高め合う子どもの育成（多様性の認め合い）を図ることができたか。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業では、「思いやり」を重点内容項目とし、互いを認め合う大切さについて考えさせることができた。</li> <li>・児童の個性や能力を伸ばす学級経営として、認め励まし褒める指導に努めた。</li> <li>・行事では、仲間と一つの目標に向かい、取り組むことで、協力や励まし、認め合いの大切さを学ぶ機会となっている。</li> <li>・日頃の授業では、対話の授業を通して、互いの意見の違いに気づき、違いを認め合い前に進むことの大切さを学ばせている。</li> <li>・人権擁護委員に講師として来校していただき、全学年で人権教室を開催できた。</li> <li>・対面や参集型で行事ができるようになり、児童会活動や行事では、仲間の頑張りを認め、励まし合う姿が見られた。</li> <li>・次年度は、学年経営を中心にして認め高めあう仲間づくりをしていく。</li> </ul>	A	A
教育課程・学習指導	<p><b>特色ある教育課程の実施</b>          落ち着きのあるきれいな学校の実現のために学習規律の徹底と、朝読書の取り組み、学級花壇の整備を継続することができたか。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上江別小学習スタンダードを定着させることや朝読書を全校で共通に取り組むことにより、児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。</li> <li>・今年度は人権の花運動が割り当たり、花のお世話活動を通して、小さな命も大切にすることで、より一層人権意識を高めるきっかけとなった。</li> <li>・学級花壇の整備では、学年ごとに工夫したデザインにし、自分たちの花壇をきれいに維持しようと意欲を高めていた。児童が自主的に水やりなどお世話を行う姿がよく見られた。</li> <li>・読書活動では、先生のお勧めの本の紹介や、先生の読み聞かせを行い、児童の興味関心を高めた。図書司書との連携で学習に関連する図書を準備することができた。また、家読の取組では、家庭との連携を図ることができた。</li> <li>・読み聞かせの会の方による本の紹介の掲示や図書修理の会の方の活動を児童が見学するな</li> </ul>	A	A

			ど、ボランティアの方との連携で読書環境が充実した。 ・司書やボランティアの方々と連携を継続していく。		
	<b>新学習指導要領の 確実な実施</b> 外国語活動、ICT やプログラミング 教育に関わる 研修を充実し、 指導力を高める ことはできた か。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語専科の配置や ALT の授業により、学習環境は充実している。</li> <li>・専科教諭のイングリッシュルームの設営により外国語に触れる環境が充実した。また、外国語の授業では、授業の質が高まり、外国語が好きという児童が増えた。</li> <li>・タブレット端末活用が進み、家庭への持ち帰り家庭学習に活用することが定着した。デジタルドリルの活用も慣れ、児童が個別の学びを進めることができています。</li> <li>・タイピングやプレゼンソフト活用技能も高まっている。</li> <li>・校長と研修履歴をもとに、一人一人の教職員に合った研修内容を考えることで、教職員が率先して研修しようとする意欲の向上につなげることができた。</li> <li>・今後は、プログラミング教育の学習の取り組み状況や ICT 活用の授業の様子を保護者に丁寧に伝えていきたい。</li> </ul>	A	A
特別支援教育	<b>特別支援教育の 推進と保護者への 周知</b> 特別支援教育について、教職員間の共通理解を図る。特別支援 Co を中心として、児童理解・保護者との対話、教育相談に努めたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度始めに特別な支援が必要な児童に対する支援のあり方について共通理解を図り、特別支援教育を推進してきた。</li> <li>・校内研修で児童理解や具体的な支援の仕方について、コーディネーターがミニ研修を行った。</li> <li>・教育相談に関しては、特別支援 Co を中心にして、随時ケース会議や教育相談を行い、保護者と連携し、児童のよりよい支援につなげることができた。</li> <li>・担任外と支援員等で構成する協力指導委員会では児童についての交流をし、1ヶ月ごとの短い期間で行い、実態把握をし、共通理解のもとに指導にあたることができた。</li> <li>・必要に応じ、心の教室相談員・養護教諭・SSW 等と連携を図り、保護者とつなぎ、支援の充実につなげることができた。</li> <li>・校内研修で外部講師から児童理解や具体的な支援の仕方を学ぶ機会を設ける。</li> <li>・次年度も引き続き、組織的な特別支援教育推進体制を進めていきたい。</li> <li>・次年度は、特別支援教育について保護者へのお知らせを充実させていく。</li> </ul>	A	A
生徒指導	<b>規範意識の醸成 と基本的生活習慣の醸成</b> 予防的生徒指導の推進、体力づくりの工夫と外遊びの励行などの継続的な取り組みができたか。  「安心」「安	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が共通理解を図り、あいさつや礼儀を大切に、きまりを守ることなど、指導にブレや差がないように、その都度、生徒指導部や学年団を中心にして、指導事項を確認することで、予防的な生徒指導につなげることができた。</li> <li>・児童会の行事として、学級でいじめをなくす標語を作成し、児童会のなかよし集会で発表し、集会後は人権教室でいじめに対する考えを深めた。いじめをなくす標語は石狩管内の「絆づくりメッセージコンクール」で3学級が入賞した。児童自らがいじめを防止しようとする意</li> </ul>	A	A

	<p><b>全」の確立</b>  <b>問題行動の早期発見と早期指導、いじめへの毅然とした対応と指導の推進</b>  （いじめ防止基本方針共通理解）、<b>道徳教育の充実等、全教職員相互の協力体制のもと指導</b>することができたか。</p>	<p>識の向上につなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ基本方針の共通理解を図り、積極的ないじめの認知により早期発見につなげた。また、いじめの解消まで、いじめ対策委員会を開き、組織的に対応した。</li> <li>・担任一人でいじめを解決しようとせず、いじめ対策委員会の方針のもと組織的に対応することを徹底するために、次年度は、いじめ対策委員会を定例化する。</li> <li>・体力向上チームを中心に、体力向上策を立て、走力や持久力を高める運動（縄跳び90秒チャレンジ・ランニング3分走）を取り入れ、継続して体力向上に取り組んだ。どさんこ元気アップチャレンジと連動し、短縄跳びの記録会を全校で取り組んだ。記録の上位ランキングや記録を高める運動の紹介などを、児童の目に入る場所に掲示し、意欲につなげることができた。</li> <li>・走り方教室やスポーツライなど江別市の取り組みで、大学と連携して、体育の授業を実施した。指導方法を教職員が学ぶことができた。</li> <li>・新体力テストの分析から立てた体力向上策についての実施と評価についてまとめ、教職員全体で共通理解を図り、保護者に伝えていきたい。</li> <li>・授業では、運動力を確保し、児童の意欲が高まるような体力向上の取組を工夫していきたい。</li> </ul>		
<p><b>小中一貫教育</b></p>	<p><b>小中一貫教育</b>  夢や目標の実現に向けて最後までやりぬく子どもの育成を図ることができたか。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保の連携は対面で実施。複数で行い、十分に引継ぎや連携できた。特に上江別幼稚園との連携を中心に、スタートカリキュラム（新1年生入学から1～2か月のカリキュラム）の充実のために、幼稚園と情報交換をし、作成することができた。</li> <li>・今年度から上江別幼稚園と授業を参観し合い、連携を深めている。</li> <li>・小中一貫教育の合同研修会を年3回実施。教科部会では、カリキュラムの接続を図り、すべての教科の系統表を作成、活用した。また、児童生徒の実態を共有することで、より連携が進んだ。特別部会では、児童会・生徒会合同のあいさつ運動など小中合同でできることを計画・実施することができた。</li> <li>・地域・保護者へのお知らせをわかりやすく丁寧に行っていく。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>

<p>保護者・地域住民との連携</p>	<p><b>地域・家庭との連携と情報の発信</b>          地域や保護者、幼保中との極めて細かな連絡・相談・連携と各種通信・HPによる学校の取り組みの情報提供が充分にできたか。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより・学年だより・学級だよりで児童の様子がより伝わるように心がけ、発信してきた。</li> <li>・地域の見守り隊の方が交通安全指導をしてくださっている。定期的に児童の様子を教えていただいている。</li> <li>・保護者へのメール配信サービス（マチコミメール）を行い、すべての家庭が登録している。学級閉鎖や不審者情報、下校時の安全指導等、タイムリーにお知らせしたい内容を発信している。新1年生にも登録を呼びかけ、100名登録を目指している。</li> <li>・学年だよりのマチコミメール配信は好評である。教育活動の情報発信としても、マチコミメールを積極的に活用していく。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>
---------------------	---	----------	---	----------	----------

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪山についての安全指導など、冬型の事故を防ぐ安全教育の必要性を感じている。冬期間も子どもたちには元気に遊んでほしいが、安全に遊べる場所が少ないのが現状である。冬でも子どもたちが安全に遊べる場所の確保を市へ要望したい。</li> <li>・幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携は子どもの成長のためにも大切であり、先生同士がお互いの施設を見て交流していると思う。4～5月の入学後の参観、保育園理解、放課後児童クラブとの連携も重要である。</li> <li>・時間割や緊急の連絡を、放課後児童クラブ、デイサービス、見守り活動団体ともメールで共有できるのはありがたい。</li> <li>・小学校の外国語活動から中学校の英語科へ進むが、学習内容にギャップを感じている子もいるのではないか。小中一貫で先生方が教科の担当同士が学習内容について交流を進めているのはいいと思う。</li> <li>・デジタルを使った作品も子どもにとっては大切な作品である。デジタルデータは、まちがって消去されたとしても復元できる場合もある。教職員にもこのことを伝えてほしい。</li> <li>・学校の熱心な教育活動がわかり、ありがたく思っている。今後とも交流や相談を行い、支え合っていきたい。</li> </ul>
-----------------------	--

【評点】 A：よい      B：おおむねよい      C：ややよくない      D：よくない